

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

放射線診療従事者の不均等被ばく、とくに水晶体の管理に関する実態調査

2. 研究の対象患者

平成24年4月1日から平成29年3月31日までに当院で業務した放射線診療従事者

3. 研究の対象期間

2012年4月1日～2017年3月31日

4. 研究の概要

放射線防護について勧告を行う国際放射線防護委員会（International Commission on Radiological Protection 以下ICRP）は、近年の疫学調査の結果等を踏まえ、2012年に水晶体被ばくによる白内障のしきい線量の線量限度の引き下げを提言した。この勧告を受け、今後日本でも法令に取り入れられる可能性が高く、その対応が喫緊の課題である。医療現場では、放射線診療従事者は原則として鉛エプロン等プロテクタを着用しているが、その場合着用部位とそうでない部位で被ばく量が大きく異なる不均等被ばくとなる。水晶体の線量を把握するためには、体幹部と頭頸部に個人線量計をつける必要があるが、1つの個人線量計でしか管理していない施設もあり、不均等被ばく、とくに水晶体の管理状況は施設間で異なっている。1つの個人線量計でしか評価していない施設は、水晶体線量が過小評価になる可能性がある。そこで不均等被ばく管理を実施している医療機関における職種別、業務内容別に胸部、頸部、水晶体等価線量と実効線量の測定結果を基に、水晶体被ばくの実態と不均等被ばく管理の重要性を明らかにする。

5. 研究実施予定期間

2017年9月20日～2019年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：水晶体等価線量、実効線量、体幹部および頭頸部の線量データ

7. 外部への試料・情報の提供

インターネット。パスワードを掛け第三者が確認できない状態で渡す。

8. 研究組織

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 桜井 礼子
東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 小野 孝二
東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 堀田 昇吾
総合病院国保旭中央病院 診療技術局放射線科 五十嵐 隆元
広島大学病院 診療支援部 西丸 英治
国立病院機構東京病院 放射線科 藤田 克也

9. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

- ・研究責任者：放射線科 五十嵐 隆元
- ・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)

(研究代表者)

九州大学大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野 藤淵 俊王